

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100758		
法人名	医療法人 高信会		
事業所名	真ごころグループホーム	ユニット名	1号館
所在地	宮崎市大字郡司分乙802		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和2年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和2年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、高台にあり見晴らしが良く、ホールからの眺めが壮大で開放感がある。玄関前に遊歩道を設ける事で入居者の行動を制限する事無く、自由に散歩や気分転換をして頂いている。また、お一人おひとりに合った関わりを多く持ち、馴染みの関係を築く事に努め、入居者のサインや些細な変化にもいち早く気付き、職員間で情報を共有しサービスの質の向上を図っている。母体は医療と介護の複合施設を持つ病院であり、連携を図りながら入居者様の身体状態の把握、健康管理に努めている。同じ敷地内にある施設や地域の方々との繋がりを図る事で地域に根差したホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

良質なケアを提供できるように職員を育てる仕組みや就業環境の整備に努めている。また、利用者の認知症進行の緩和や個々が役割を持てるよう支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット理念は、ホールに提示しユニット理念に基づいたケアは実践出来ている。理念については毎月1回のミーティングで確認しながら、業務の中で常にユニット理念を意識している。ネームプレートの裏にユニット理念を携帯し、常に理念を意識している。		毎年、理念を見直し、ケアに反映できるように日常的に話し合い、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の施設と合同で秋祭りを計画し、地域ボランティアや、子供会 消防団等に働きかけ地域との交流を図っている。		近隣から花苗や野菜をもらったり、地域行事へ参加するなど、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や社協の催し物に参加させて頂き地域の方と一緒にゲームをしたり会話をしていく上で認知症に対する理解は得られている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実態、その時の議題に沿った意見交換を行い、参加者から頂いた助言をサービス向上に生かすよう取り組んでいる。		運営推進会議で、事業所の取組内容を報告するとともに、具体的な課題を話し合い、そこでの意見をサービスの向上に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者との連絡や協力関係は母体本部が行っている。本部より必要情報が伝えられ、市が開催している研修会は必ず参加している。		市の担当者との連絡や協力関係は、母体本部が行い、本部より情報が伝達される。市主催の研修会等に参加するなどして、協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で学んだ事を会議で発表し職員へ周知している。身体拘束の弊害を理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠をする事無く自由に遊歩道を散歩されている。		職員は、身体拘束とその弊害を理解し、外出の原因を探り、利用者の特性に合わせたケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことを会議で発表し、職員に周知している。認知症に対する理解を深め認知症の方の立場に立ったケアを実践する事で虐待防止の徹底を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業・後見人制度については、定例会等で学ぶ機会を設け理解を深めている。また、後見人様との連携・連絡を密に取り、状態や情報の共有を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、不安や疑問点を尋ね、納得され、かつ、安心して利用して頂く様に努めている。また、改定があった時は速やかに連絡と説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族がいつでも意見や要望が言いやすいような雰囲気づくりと、管理者室に苦情や意見を投かんできる箱を設置している。	相談・苦情受付の明示や面会時の声掛け、また、定期的に家族と連絡をとるなどとして、意見を聞くよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案が誰でも言える施設内の雰囲気づくりに努めている。その他は、定例会やユニット会はもちろん、それ以外でも会話をする機会を十分に取っている。	代表者、管理者は職員の気づきやアイデアを運営に取り入れ、サービスの向上に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの実績や勤務状況、努力などを把握している。また、年に2回の個人面談を設け目標や向上心を持っているか、自覚ややりがいがあるか等を確認しながら、就業を含めた職場環境の整備を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で職員一人ひとりの力量を把握し、その人に合ったトレーニングを行っている。また、意見や介護技術向上のために、外部での研修を受ける機会を増やしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や相互訪問の機会を増やし、サービスの質の向上やスキルアップに向け取組をしていきたい。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面会時に、御本人様が少しでも安心出来るような対応に努めている。また、入所時は環境の変化で不安があるため、関わりを多く持ち少しでも不安が軽減出来るように、寄り添いと傾聴に努める。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時、家族が抱えている問題を出来るだけ理解し、安心出来る支援方法を一緒に考える。支援内容は、適宜報告している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様と御家族様が必要としている支援を見極めるために、傾聴と常日頃の細やかな観察に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が共に支え合って喜びや楽しさを分かち合える関係の構築に努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の状況を踏まえたうえで、可能な限り協力をして頂けるような、信頼関係が出来るように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも気軽に来て頂けるような雰囲気づくりに努めている。また、馴染みの人・場所との関係が途切れないように、年賀状等を出す支援をしている。	家族の協力の下、利用者の馴染み人、場所などの訪問が実現するように支援している。知人との葉書のやり取りや写真を見たり、地域の話題をするなど利用者の関係を大切に、その人らしい暮らしの支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合いや支え合う大切さを少しでも実感できるように、話がしやすい利用者様同士が安心してゆっくり話が出来るように、さりげなく見守りを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は、転居先に情報提供を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で表情や会話・思いを感じたりしたこと、職員間での情報の共有や意見交換を行い、日々のケアに活かしている。御家族様への情報の提供や意見交換は出来ている。		利用者一人ひとりの違いを尊重した声かけや対応を行い、家族からの情報をはじめ、日々の行動や表情からくみ取り、把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査よりの情報を基に御本人様や御家族様からの意向を探り、生活が継続出来るように努める。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を、朝・夕申し送りをし、職員間での情報の共有を行い、心身の状態や現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、内容を御本人様・御家族様・職員で話し合い、現状にあった利用者本位の介護計画を作成し、随時見直しをしている。		本人や家族と話し合い、職員、関係者の意見を反映した利用者本位の介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、状況の変化に応じて適切に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の身体状態の様子やケアの内容、気づき等は個別に記録し定期的に評価を行い、変化がある場合は介護計画の見直しをしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様からの協力を頂き、医療機関や専門職のアドバイスを受けながら連携を図り、個人のニーズにあった支援が出来るように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協や地域包括支援センターから情報を貰い、地区の行事参加やボランティアの訪問をして頂く。定期的に御家族様以外との交流の場を設けている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に細かな情報の提供を行い、指示を仰いでいる。受診が難しい方には、定期的な往診へ切り替え、行っている。	本人、家族の希望する医療機関で受診し、母体病院から定期的に往診がある。他科受診は、家族や職員で情報を共有し、適切に医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な状態変化や気付きがあれば病歴との関連性や可能性を考え看護師へ報告している。看護師は昼夜問わず電話にて報告・指示を仰いでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを作成し速やかに情報提供を行っている。入院中は出来るだけ面会に行き、病院関係者と情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重症化した場合における対応の指針を説明し理解を頂いている。重症化した場合は、主治医と密に連携を図りながら御家族様、職員間で話し合い、方針を決めている。	入居時に家族には十分に説明を行い、重度化した際の方針について書面で同意を得ている。状況に応じて母体病院と連絡をとり、随時、利用者、家族の意向を重視した終末期における支援が出来るように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアル見直しは適宜行っている。外部研修や職場内での勉強会等で、救急蘇生法や知識・実践力を身に付けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回の避難訓練と年に2回総合訓練を行っている。色々な状況を想定し、課題を把握し改善出来る様に努めている。地元消防団にも参加して頂いている。	避難訓練に消防団が参加し、月1回のユニット別の避難訓練と年2回の総合訓練を実施している。非常用食料などの備蓄はあるが、昼夜を問わず確実な避難策、ハザードマップに沿った具体的な避難誘導は作成途中である。	利用者の状態を踏まえ、いつでも安全に避難誘導ができる取組と、ハザードマップを確認し、BCPの強化を図ることに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やペース・意思を尊重し、その人に合った支援を提供している。		利用者の尊厳を大切に、さりげない言葉かけや対応に配慮するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の表情や仕草、行動を見守り、御本人が自己決定が出来るように、働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は自分の常識にとられる事無く、常に本人の意思や気持ちを汲み取った支援を行う。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時の着替えの洋服を選んで頂き、御本人の意向を取り入れながら支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや摂取状態を把握し、食べやすい形態や代替えのメニューで提供している。その他は、定期的におでん・麺・お寿司・ハンバーガーの日等を設けている。		利用者と職員は、一緒に食事をし利用者のできる範囲で片づけを行っている。また、好みのメニューを取り入れ、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを行い、一人ひとりの把握をしている。個人の好みに合った食べやすいお菓子や、飲み物を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はもちろん、すぐに口腔ケアや残渣物の確認が出来ない時は、出来やすい時に必ず口腔内の確認と口腔ケアを行う。場所や時間は考慮し、その方に合った適切な支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや表情・仕草を出来るだけ察知し、トイレの声掛けと誘導をする事で失敗の軽減に努めている。		排せつチェック表や利用者の表情、言動から排せつパターンを把握し、排せつの自立に向けて支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行い、食事は管理栄養士が栄養のバランスを考えたメニューにて提供されている。食事前のお口の体操や適度な運動を取り入れ予防に努める。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人が入りたい時に、対応が出来るように準備はしている。拒否がある場合は無理をせず時間をずらしたり、声掛けする職員を変えたり等の工夫を行っている。リラックスできる雰囲気作りをし、ゆっくり入浴出来るように心掛けている。		本人の意向に沿った入浴の支援を行い、入浴を拒む利用者には、家族の協力や清拭等で対応に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は出来るだけゆっくり安心して休まれるように居室内の環境の工夫に努めている。自分で休息が取れない方には、支援を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬者には、必ず職員が手渡し・飲み込みまで確認を行っている。提供時・後のチェックも複数回行い誤薬や飲み忘れがないように努めている。職員は、薬の作用や副作用等の理解をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や興味等を見つけ、喜びや楽しみがある生活が出来るように工夫している。また、季節感が味わえる場所にドライブに行ったりしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中玄関の施錠はせず、利用者は自由に外へ行く事が出来、遊歩道を安心して歩かれている。また、玄関先にベンチを設置しており休息を取ったり話をされている。御家族の協力を頂き、外出や外食等の支援をしている。		日常的に玄関前の遊歩道での散歩を支援している。また、買い物、地域行事への参加や家族の協力の下、外食や外出の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は施設にて行う。可能な方は、必要な金額を渡し、買い物をする楽しさやお金の大切さを感じて頂く。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時は、職員が利用者の前でダイヤルを押し電話をする。この時、話されたり、職員が代わりに話したい内容を代弁する場合もある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内にソファを設置し、ゆっくり過ごす空間の提供と季節感が分かる絵や文字等を作成し、ホール中央の壁に貼り提示している。温度・湿度管理は測定器を設置し、常に確認し、適切な温度・湿度が保たれるように調整している。	利用者の動線や五感を刺激する工夫、また家庭的な雰囲気への飾りつけなど、居心地の良い空間づくりに取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	直射日光が強い時はカーテンを閉めたり、座る位置を変えたりする工夫を行う。また、ホール居室以外でゆっくり自分の時間が取れたり、音楽を聞いたり出来るように会議室を日中オープンにしており、自由に使用出来る。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の協力により、馴染みのある物やテレビ、好きな物等を置いて頂く。居心地良く、ゆっくり過ごせるように工夫を行う。	使い慣れた馴染みの物を配置し、安心して居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内の物の位置の把握を常に行い、利用者様が安全で安心されながら生活が出来るように、さりげなく見守りを行う。出来る方はして頂きながら見守り、場所が分からない方へは、場所ごとに用紙に見えやすい表記で見えやすい場所に貼り、分かりやすいようにしている。			